

「平成 29 年度スリランカ視察研修」事業を実施

海外への投資可能性、消費市場のポテンシャルなどを調査するため毎年度、海外視察研修を実施しています。今年度は、「スリランカ」を訪問し、現地企業への訪問等を通じ、経済、物流、人材、産業などスリランカが持つ多くの可能性を確認し、また輸出加工区（EPZ）の製造拠点、港湾施設（コロンボ港）や商業施設等を視察しビジネス環境実態を体感、さらに進出日系企業等との交流を通じて人脈を構築し「生の声」を聴取することができました。

また、今回は、経済担当大臣の表敬や個人家庭への訪問も組入れ、幅広い視察とすることができました。

- 日程：平成 29 年 8 月 27 日（日）～31 日（木）
- 参加者数：12 社・団体、16 人
- 訪問先：スリランカ（コロンボおよび近郊）
- 主催：ひろしま産業振興機構
日本貿易振興機構広島貿易情報センター
- 視察先等：
 - ・ジェットロコロンボ事務所（ブリーフィング）
 - ・日系進出企業（製造、物流、飲食、サービス等）
 - ・現地系企業（アパレル製造業）
 - ・高齢者ケア施設 ・コロンボ港
 - ・大型商業施設、ローカル小売等
 - ・現地進出日系企業との交流レセプション
 - ・経済担当大臣表敬 ・個人家庭宅訪問



（コロンボ市内）

<スリランカ>

インド洋の要所に位置する島国で、2009 年の内戦終結後は治安が大幅に改善し、堅実な経済成長を遂げる。主要産業は、アパレル製品、紅茶、サービス業など。海外からの投資誘致も積極的。人口は約 2 千万人と一定規模の市場があり、一人当たり GDP は 3,849 米ドルと高く、市場としても期待ができる国です。

《スリランカ視察のポイント／参加者の声》

【ポテンシャルの確認】 現地企業への訪問等を通じ、経済、物流、人材、産業などスリランカが持つ多くのポテンシャルを確認

❖参加者の声

- ・製造業として最も大切な、人的教育水準の高さ・勤勉性、安定性を確認できた。
- ・スーパーでの豊富な品揃えに、食文化の豊かさと生活水準の高さを感じた。一方、他の製品、商品は不足しているようで、市場の将来性に期待できる。
- ・日本車が非常に多く走り、建築ラッシュもあり、大きな経済成長が確認できた。
- ・高齢者ケア施設では、高所得者層の入居や高齢化の実態を見ることができた。
- ・日系の進出理由が地理的な優位性、安価な人件費、人材の質、中間層以上の市場規模だと分かった。

【ビジネス環境の体感】 輸出加工区（EPZ）の製造拠点、港湾施設（コロンボ港）や商業施設等の視察、一般家庭への訪問でビジネス環境を体感

❖参加者の声

- ・欧州との親和性の高さ、インドとの距離感、中華圏の影響などもあり、国際間の活動拠点としてダイナミックな可能性を感じた。
- ・紅茶の国の認識であったが、ヨーロッパ、中東、アフリカなども視野に入れた多品目の輸出や物流の拠点として、また FTA を結んでいるインドへの輸出拠点として重要な国であると感じた。
- ・一般家庭を訪問することで、生活環境、食事情など身近な情報を得ることができた。

【ネットワーク等の獲得】 進出日系企業やスリランカ経済担当大臣との交流を通じて人脈を構築し「生の声」を聴取

❖参加者の声

- ・経済担当大臣に面会し、国の経済トップの意気込みに感銘を受けた。
- ・現地ビジネス交流会で、現地の駐在事情、日系企業の活躍状況について広い情報交換ができた。